

「進行卵巣癌に対する術前化学療法の至適コース数に関する検討」
に関する研究

1、研究の対象

当院において2000年1月より2015年12月の間に当院で術前化学療法を施行した後に初回手術を施行した患者さんが対象となります。

2、研究目的・方法

卵巣癌は早期発見が困難であり多量腹水の貯留等進行した状態で発見されることが多い病気です。手術で病変を取りきることが最も治療効果があると言われていますが、全身状態不良であることや病変がお腹の中に広がっているために完全切除困難な症例も多く、術前化学療法にて腫瘍の縮小を行い、その後に手術をすることで治療効果があることが知られています。しかしながら術前化学療法を行うにあたり、化学療法を何コース行うのが最も適当かは依然不明であるのが現状です。そこで今回当院で術前化学療法を行った進行卵巣癌患者さんを対象とし、術前化学療法のコース数と予後や腫瘍の完全切除の有無等に相関があるかを調べることを目的とした検討を行います。研究期間は平成33年12月31日までを予定しております。

3、研究に用いる試料・情報の種類

取得される情報は通常診療録に記載される情報であり、この研究のために改めて情報を取得することや、侵襲を加えることはありません。取得する情報の内容としては以下の内容になります。

年齢、FIGO病期やTNM分類（病気のひろがりや転移の有無のこと）、治療歴、手術内容、手術関連情報（出血量や手術時間、腫瘍を手術で取り切れたか等）、初回治療から再発までの期間、化学療法の投与量、化学療法のコース数、化学療法の奏効率（効果の有無のこと）、化学療法による副作用の頻度・程度、治療開始から再発までの期間、最終生存確認日（または死亡日）等になります。

4、お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

防衛医科大学校 産科婦人科学講座 宮本守員

〒359-8513 埼玉県所沢市並木 3-2

電話 : 04-2995-1511 (内線 2363)

FAX : 04-2996-5213

研究責任者 :

防衛医科大学校病院 産科婦人科学講座 教授

古谷 健一